

English in Action Book 1 の Lesson 1 から Lesson 10 までで、自分の名前や年齢、生まれた月、住んでいるところ、家族のこと、学校で学ぶ教科や曜日ごとの時間割、できることとできないこと、好きなこと嫌いなこと、など自己紹介をある程度詳しくできるようになり、友だちが自己紹介をしているのを聞いて理解でき、指導者の質問にも多少サポートしてもらえば答えられるようになっています。

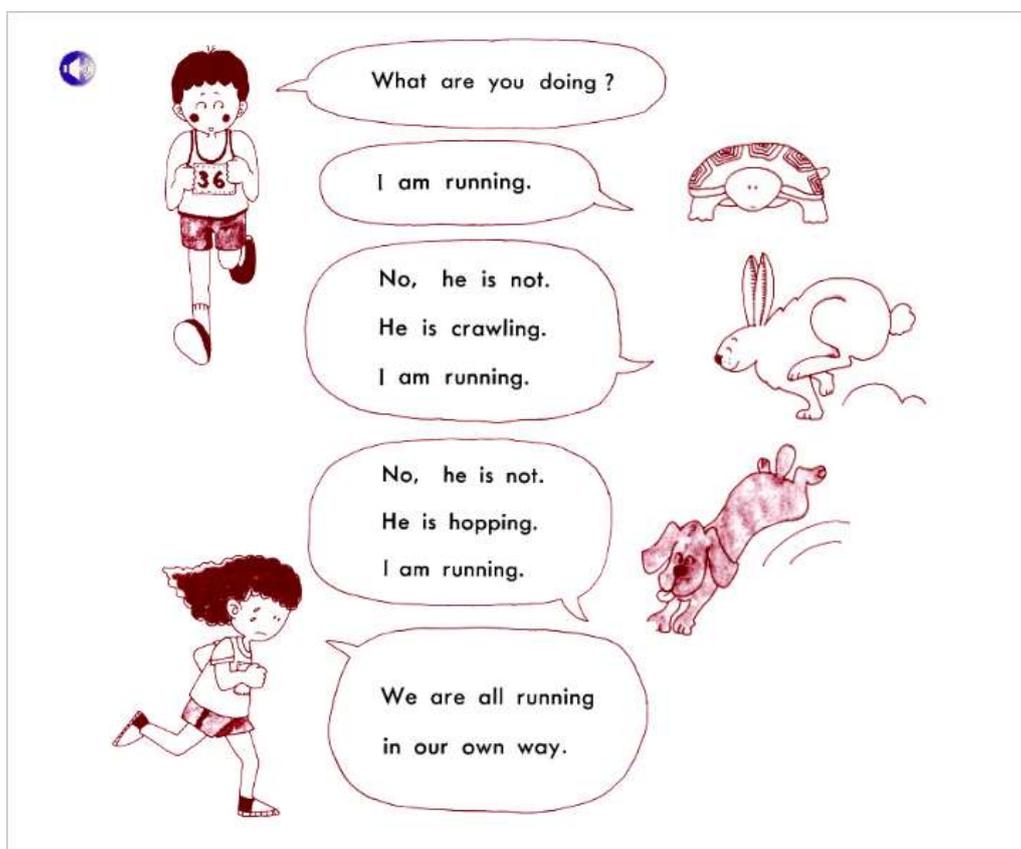
そして、歌や手遊びなどで英語らしい音を聞き分け、自分でも日本語とはだいぶ違う音の連続である「英語の音の流れ」で表現することに慣れ、歌ったり話そうとしたりすることが楽しくなっています。

Book 2 に入って、今まで、英語で表現するときになんとなく感じていたルールらしきものについて、Lesson 11 から少しずつ自分でも確かめられるような構成になっているので、話題を広げて友だちや先生と話し合うことができるようになります。でも、まだまだ語彙も本当に言いたいことを表現するには無理があり、内容も単純で、物足りない感じです。

それでも、歌やライムを唱える楽しさも増し、早口言葉などで英語らしい音を出そうとすると、だいぶ口が回るようになってきています。聞き取れる英語の量も増え、分からないところがあっても、少し我慢して聞き続けると理解が深まる類推力も伸びていることを感じ、英語で表現する自信も増しています。

Book 3 は、このような力がついてきたころに、動詞や形容詞の語彙を増やし、さらに英語表現を膨らませるようにサポートする指導内容になっています。上の子どもたちがいろいろな動作をしているイラストは、外来語にもなっている動詞が多いので、見ただけで理解できると思います。デジタル教材では、イラストごとに音声が進め込まれているので、クリックすれば動詞の発音を聞くことができ、真似をして言えるようになっています。

次に、真ん中にある 4 つの文を読んで聞かせる(或いは、スピーカー・マークをクリックして聞かせる)と、一緒に言おうとしていることがあります。抑揚をつけてそれらしく聞かせると、真似をして、自分でも言いたい、と言って、練習をしたがるようになります。「言えるところに印をつけてごらん」と促すと、ためらいもなく○や下線でマークをしています。読めている証拠です。「読めるねえ」などとは言わず、素知らぬ顔で「印をつけたところだけでいいから一緒に言ってみよう」と誘います。「あ、ここも言えた！」と印を増やしていることもあります。この時、読めたのなら書写するように、などと言う指示は絶対にしません。読めても書けない、文章を書く、ということにはそれほど強い意欲を持っていない段階だからです。書きたい、と言っても間違いが多くなるので、むしろもう少し時期を待つ方がいい、と思います。



English in Action Book 3 にある 1 ページです。イラストを指しながら、What is this? It is a tortoise/ a rabbit/ a dog.などと確認し、What is it doing? と吹き出しの英文を読ん

で聞かせます。デジタル版ですと、英文だけでなく、勿論イラストの動物たちにも音声が入っています。**crawling/ hopping** は知らなかった、と思う子どもも、カメやウサギの動きを知っているのです、日本語に訳さなくてもイメージできて意味を捉えることができます。代名詞+be 動詞の形を目で捉えて、英語のルールを理解し、読もうとします。カメの英語はゆっくり、ウサギは少し早めに軽やかに、イヌは吠えているような声などと、声色を使い分けて読んでくれたりします。役柄を選んで言うのも好きです。その時に、何処を読めばいいのか間違えずに吹き出しを選びます。

声優さんのような表現力とは比べられませんが、それでも、英語の意味を体の中に取り込み、表現しようとしている素直さに心打たれます。無理をせず、自然に英文を目で確かめて音声化する力をつけていってくれる子どもたちの成長を、とても頼もしく思います。

🎧 We use soy sauce.

We like *tofu* and *natto*.

We make oil from soybeans.

We want soybeans.

We want to buy soybeans from America.

We buy corn and wheat from America.



日本人の食卓には大豆製品が欠かせない。大豆製品は健康に良いとされている。



アメリカの農家は、大豆の種子を育てる。大豆は土地と機械化と高度の経営が、この世界最大の大豆産出国である。

子どもたちにこの英文を見て、「読める言葉があるかな」と誘い掛けます。「ある、ある！
tofu, natto, America！」という答えがすぐに返ってきます。その後、まだ何か見つけるだ
ろうか、停まっていると、We, corn, oil, want などとバラバラに答えます。それでは、と子
どもたちが見つけたことばが聞こえてくるか確かめよう、と言って CD のボタンを押します。
(デジタルの場合はスピーカー・マークをクリックします。)子どもたちは読めたことばが音
声で聞こえてくるのを捉えて、自信に満ちた眼差しを送ってきます。

この確認を行った後で、この 6 つの文をもう一度聞かせると、文字から目を離さずに音
源の後について言う練習をします。読めた！という手ごたえは大きいようです。

その後で、

We use cars.

We like travelling.

We want gasoline.

We want to buy a road map.

などの応用表現のヒントを出すと、例文を見つめながら、自分たちで新しい表現を考え出し
ます。

We use a juicer.

We like banana juice.

We want bananas.

We want sugar, too.

We want to buy milk.

単語を入れ替えただけ、といえばそれまでですが、自分で言葉を探し、自分の言いたいことを言えた、と言う満足感を味わうことは、次の一歩につながると思います。